

2021年8月期（第43期）第1四半期

決算補足説明資料

 ユーピーアール株式会社

（証券コード：7065）

2021年1月14日

## 業績

売上高

3,217百万円

経常利益

309百万円

EBITDA※

934百万円

- 対前年同四半期比増収を果たすも、新型レンタルパレットの先行投資による売上原価の増加等の要因により減益  
(増減率 売上高：2.9% 経常利益：△21.6% EBITDA：△6.2%)
- 通期業績予想に対しては堅調に推移  
(進捗率 売上高：23.7% 経常利益：27.7% EBITDA：23.9%)

※EBITDA = 税引前当期利益 + 減価償却費 + 支払利息

## トピックス

- 2020年9月 アシストスーツ事業の主力商品であるサポートジャケット Bbシリーズから「サポートジャケットBb + PRO II」を新発売



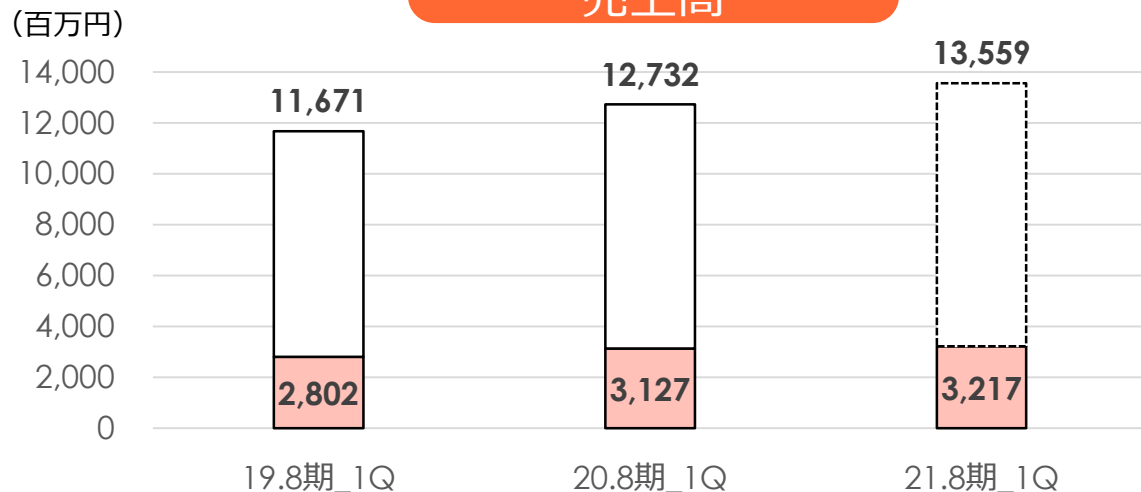
- 2020年10月「中期経営計画2025」を発表  
(<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7065/tdnet/1890368/00.pdf? fsi=OfERWjqp>)
- 2020年12月 当社開発遠隔監視サービスにおいて(株)グリムスパワー様との協業開始を発表
- 2020年12月 スマートパレット※を利用した取組において、グリーン物流パートナーシップ会議「特別賞」を東レ(株)様と共同受賞

※スマートパレットとは当社と日本電信電話(株) (NTT) 様が共同開発した、電波が最大300m飛ぶ最先端技術のアクティブタグを搭載したパレットです

## 第1四半期のポイント

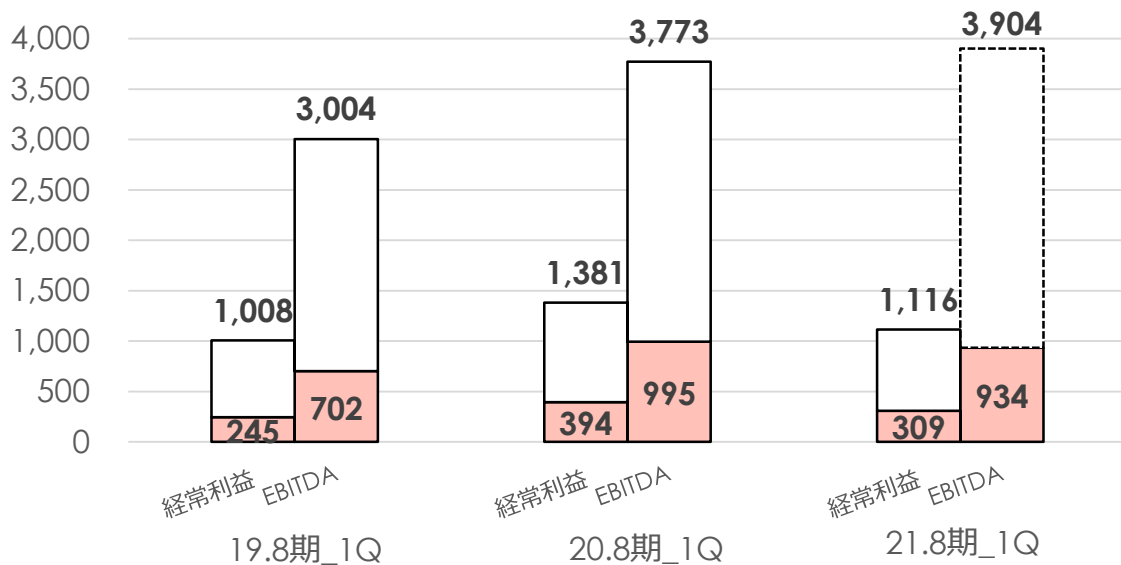
- 家庭紙メーカーの共同利用・共同回収の取扱量が順調に増加
- アシストスーツ事業において、新型コロナウイルス対策を講じながら各種展示会が徐々に再開
- 物流事業者の配送効率化意識の向上により、パレット輸送化が浸透
- コロナ禍での景気低迷による一部の業種において生産調整により保管用パレットの需要が減少
- 海外からの輸入減少により港湾倉庫における保管用パレットの需要が減少
- 対面営業の制限により新規取引先の獲得が前年と比べて減少

## 売上高



売上高  
対前年同四半期比で  
**2.9%増収**

## 経常利益・EBITDA



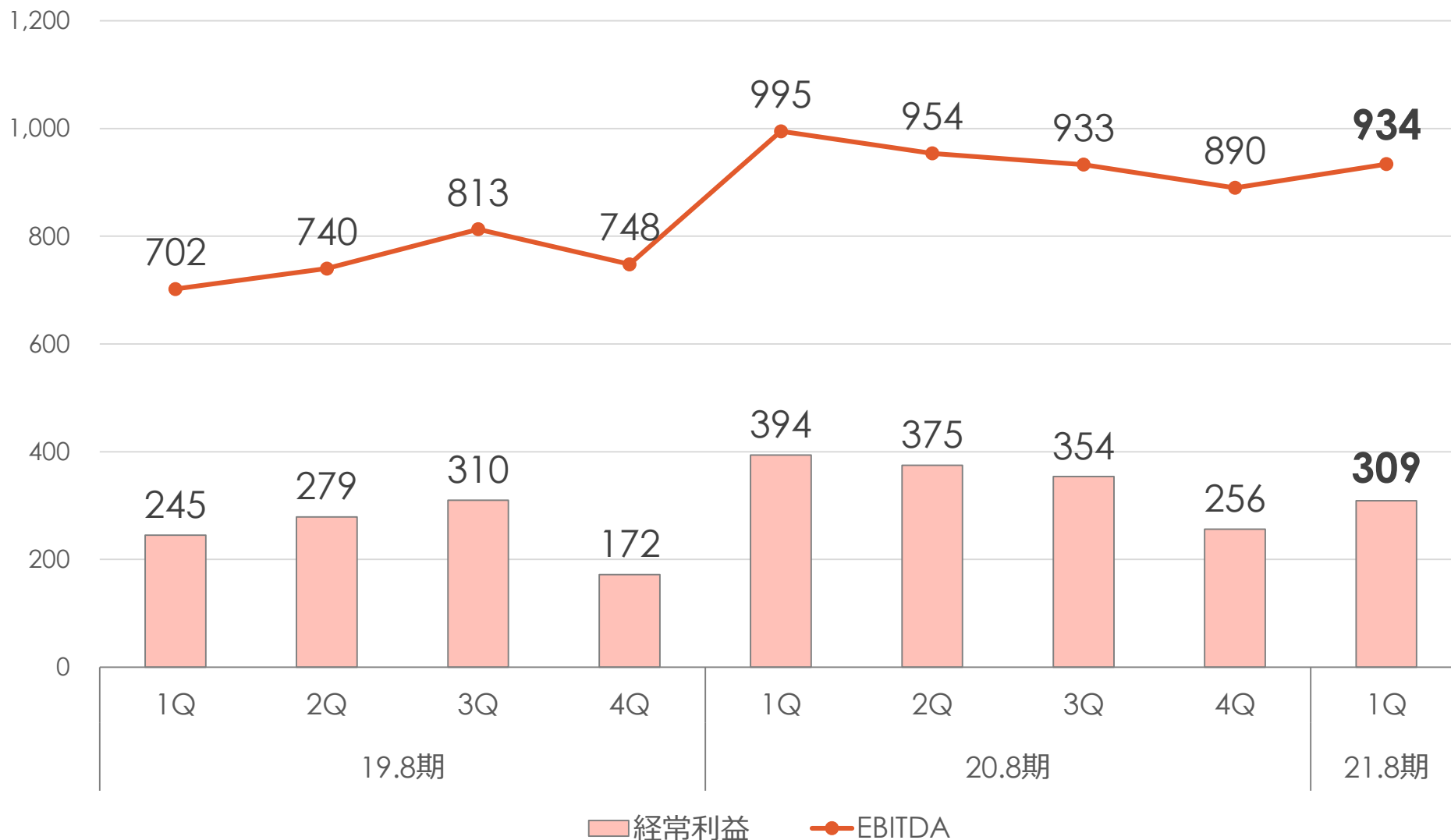
経常利益  
通期業績予想に対し  
**27.7%進捗**

EBITDA  
通期業績予想に対し  
**23.9%進捗**

※19.8期第1四半期の各数値は金融商品取引法に基づく公認会計士監査を受けた数値ではありません。

# 経常利益及びEBITDAの推移（四半期毎）

(百万円)

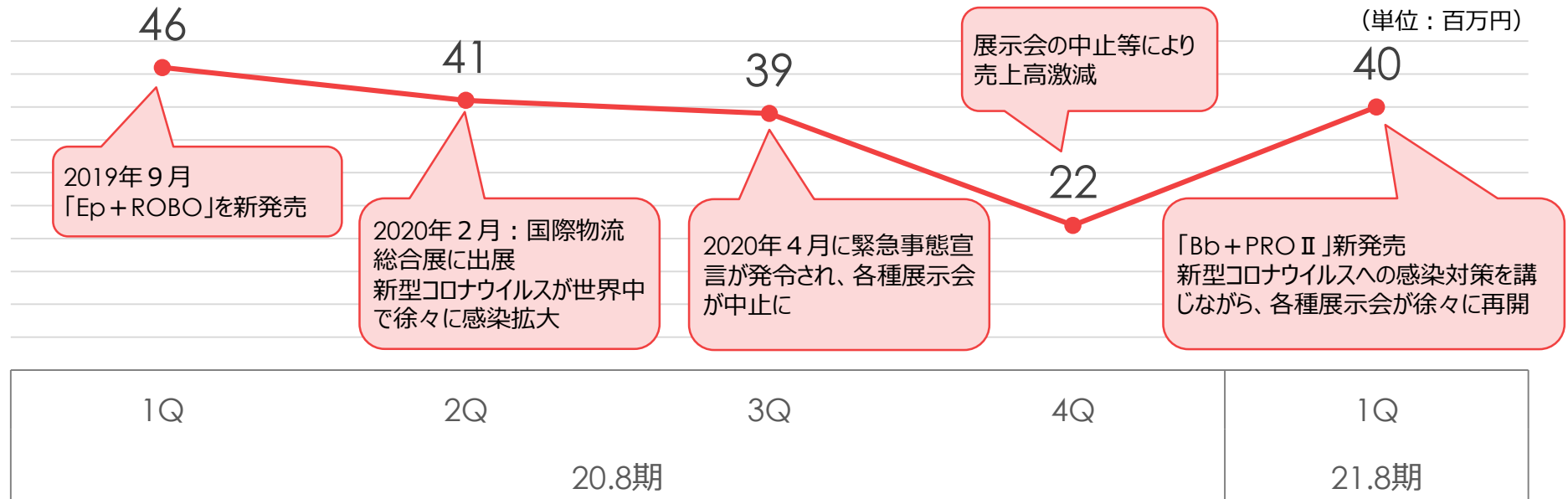


※19.8期第1四半期の各数値は金融商品取引法に基づく公認会計士監査を受けた数値ではありません。

(単位：百万円)						
		20.8期_1Q	21.8期_1Q	増減額	増減率	対業績予想 進捗率
物流事業	レンタル	2,114	<b>2,170</b>	55	2.6%	23.2%
	販売	665	<b>697</b>	31	4.8%	25.7%
	アシストスーツ	46	<b>40</b>	△6	△14.0%	14.4%
	物流IoT	80	<b>88</b>	8	10.0%	23.4%
	合計	2,908	<b>2,997</b>	88	3.1%	23.5%
コネクティッド事業	ICT	82	<b>111</b>	28	34.4%	29.2%
	ビークルソリューション	136	<b>108</b>	△27	△20.0%	25.0%
	合計	218	<b>220</b>	1	0.6%	27.0%
<b>全社合計</b> (うち海外)		<b>3,127</b> (152)	<b>3,217</b> (128)	<b>90</b> (△23)	<b>2.9%</b> (△15.5%)	<b>23.7%</b> (25.1%)

## アシストスーツ

- 2020年9月1日に「Bb + PRO II」を新発売
- 20.8期第4四半期と比べると増減率76.9%と大幅な回復を遂げており、およそコロナ前の水準にまで回復
- ただし、アシストスーツ事業の売上は下期偏重で計画しているため、対業績予想進捗率は14.4%となる



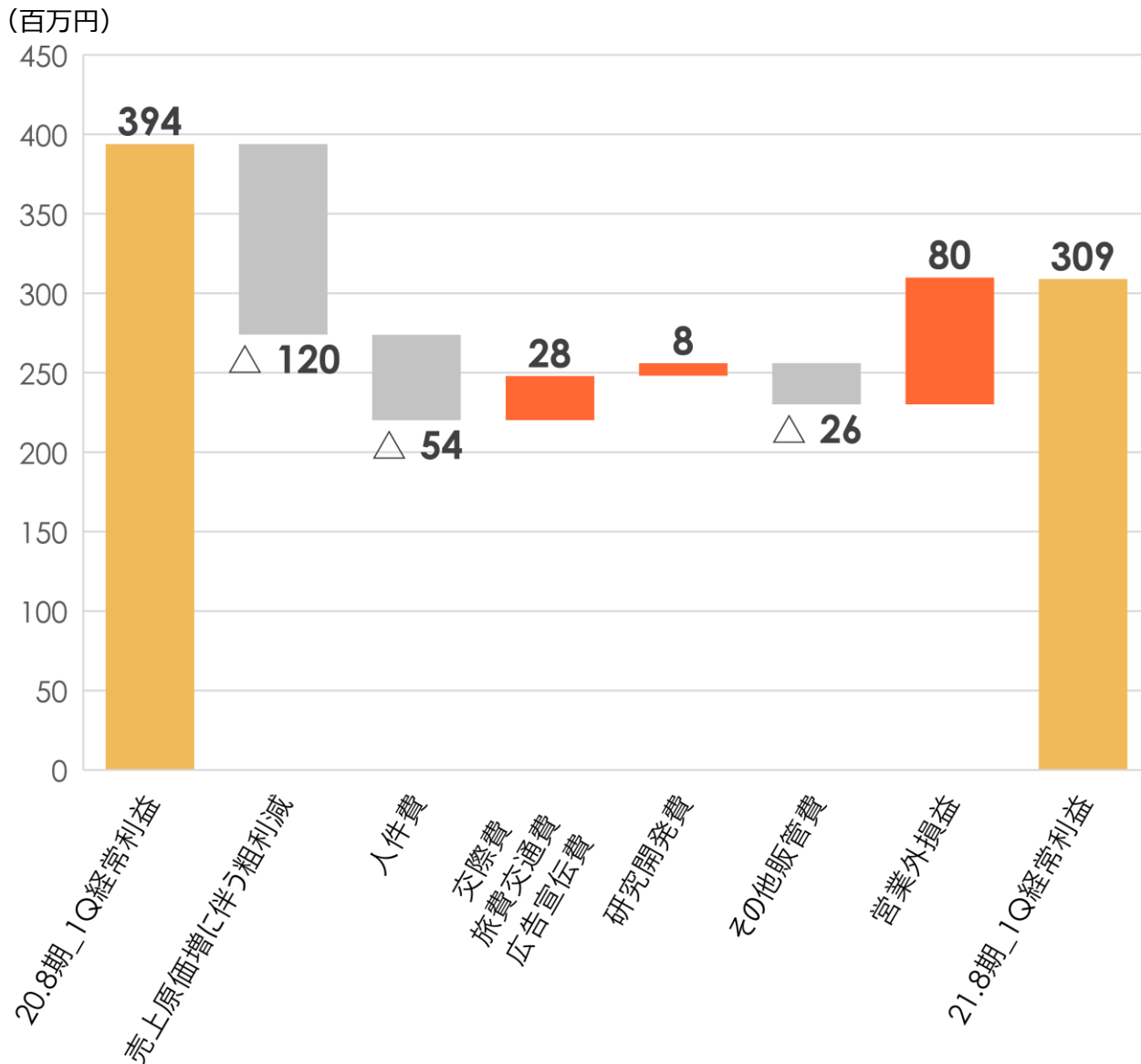


## ICT

- 前年同四半期比増収、業績予想に対しても順調に推移
- 2020年12月には当社開発遠隔監視サービスにおいて(株)グリムスパワー様との協業開始を発表
- 2021年1月にはHACCPパッケージサービスの開始を発表

## ビークルソリューション

- コロナ禍において主要取引先からの受注が減少したが、業績予想に織り込み済みであり、対業績予想進捗率は順調に推移
- 2020年10月にキーボックス型モビリティ無人貸渡システムの提供を開始し、さらに2020年12月より先述の無人貸渡システムと、4G対応型カーシェアリング用車載器「CATS-5L」を組み合わせた併用システムの提供を開始



- ◆ 売上原価増に伴う粗利減  
売上は増収したものの、先行投資分の保有パレットの保管費及び減価償却費が高んだこと等が要因で原価率が悪化。  
粗利益は120百万円減少
- ◆ 人件費  
対前年同四半期比14人増  
従業員給与のベースアップを実施
- ◆ コロナによる営業制限により、交際費、旅費交通費、広告宣伝費については対前年同期比改善
- ◆ 営業外損益  
保険解約返戻金：75百万円

# 損益計算書 (PL)

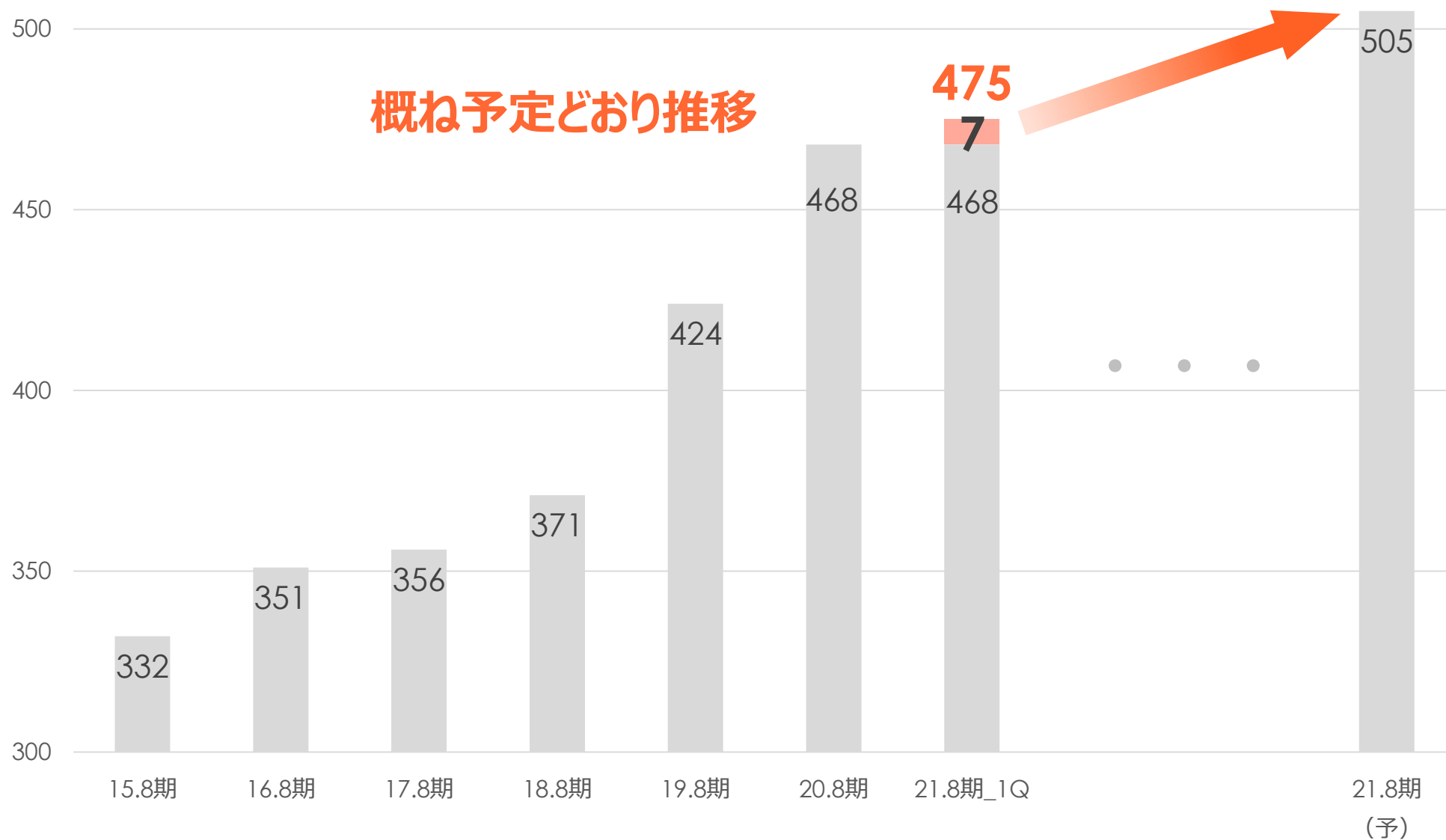
(単位：百万円)	20.8期_1Q	21.8期_1Q			
			増減額	増減率	コメント
売上高	3,127	<b>3,217</b>	90	2.9%	
売上原価	1,923	<b>2,134</b>	210	11.0%	先行投資の新型パレット枚数の増加等により、保管費及び減価償却費の負担増
売上総利益	1,203	<b>1,083</b>	△120	△10.0%	
売上総利益率	38.5%	<b>33.7%</b>	－	△4.8%	売上原価の上昇により売上総利益率悪化
販売費及び一般管理費	849	<b>894</b>	45	5.3%	
販管費率	27.2%	<b>27.8%</b>	－	0.6%	
営業利益	354	<b>188</b>	△165	△46.8%	
営業利益率	11.3%	<b>5.9%</b>	－	△5.4%	
経常利益	394	<b>309</b>	△85	△21.6%	
経常利益率	12.6%	<b>9.6%</b>	－	△3.0%	
当期純利益	308	<b>199</b>	△109	△35.4%	
当期純利益率	9.9%	<b>6.2%</b>	－	△3.7%	
設備投資額	1,140	<b>933</b>	△207	△18.2%	20.8期は1Qでレンタルパレットを大量購入
減価償却費	526	<b>622</b>	95	18.2%	保有パレット枚数増加によるもの
EBITDA※	995	<b>934</b>	△61	△6.2%	税引前利益の減少によるもの
研究開発費	20	<b>11</b>	△8	△40.4%	

※EBITDA = 税引前当期利益 + 減価償却費 + 支払利息

(単位：百万円)

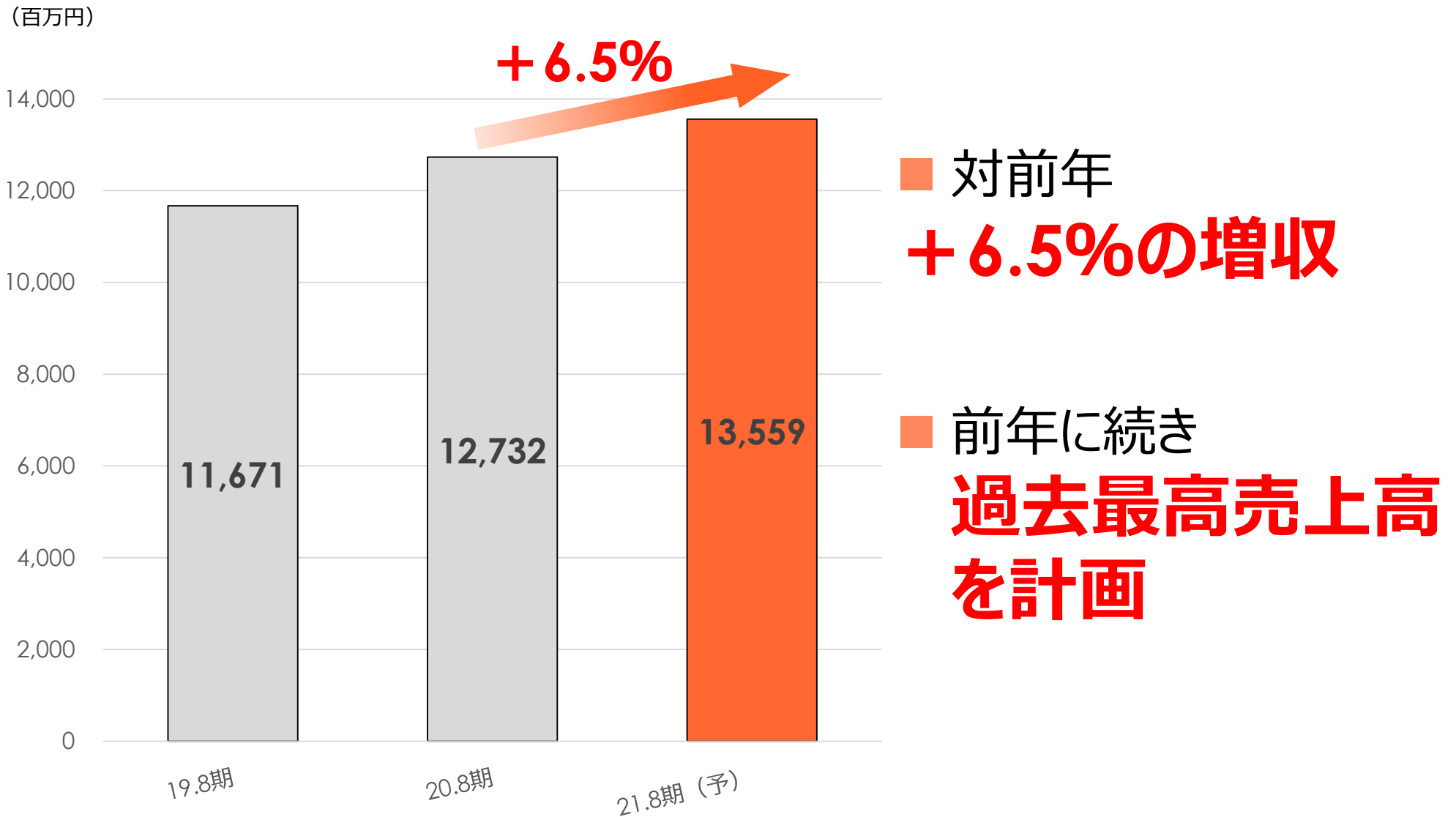
	20.8期	21.8期_1Q		
			増減額	コメント
流動資産	6,105	<b>5,051</b>	△1,054	
現金及び預金	3,658	<b>2,825</b>	△832	買掛金等の支払による減少
固定資産	13,923	<b>14,172</b>	249	
レンタル資産 (純額)	10,627	<b>10,828</b>	200	レンタルパレット購入による増加
<b>資産合計</b>	20,029	<b>19,223</b>	△805	
<b>負債合計</b>	13,285	<b>12,380</b>	△904	買掛金、長期借入金の減少
株主資本	6,734	<b>6,834</b>	99	利益剰余金の増加
<b>純資産</b>	6,743	<b>6,843</b>	99	
<b>負債・純資産合計</b>	20,029	<b>19,223</b>	△805	
<b>自己資本比率 (%)</b>	33.6%	<b>35.5%</b>	1.9%	

(万枚)



# ＜参考資料＞

2021年8月期 通期業績予想  
(2020年10月15日 公表)



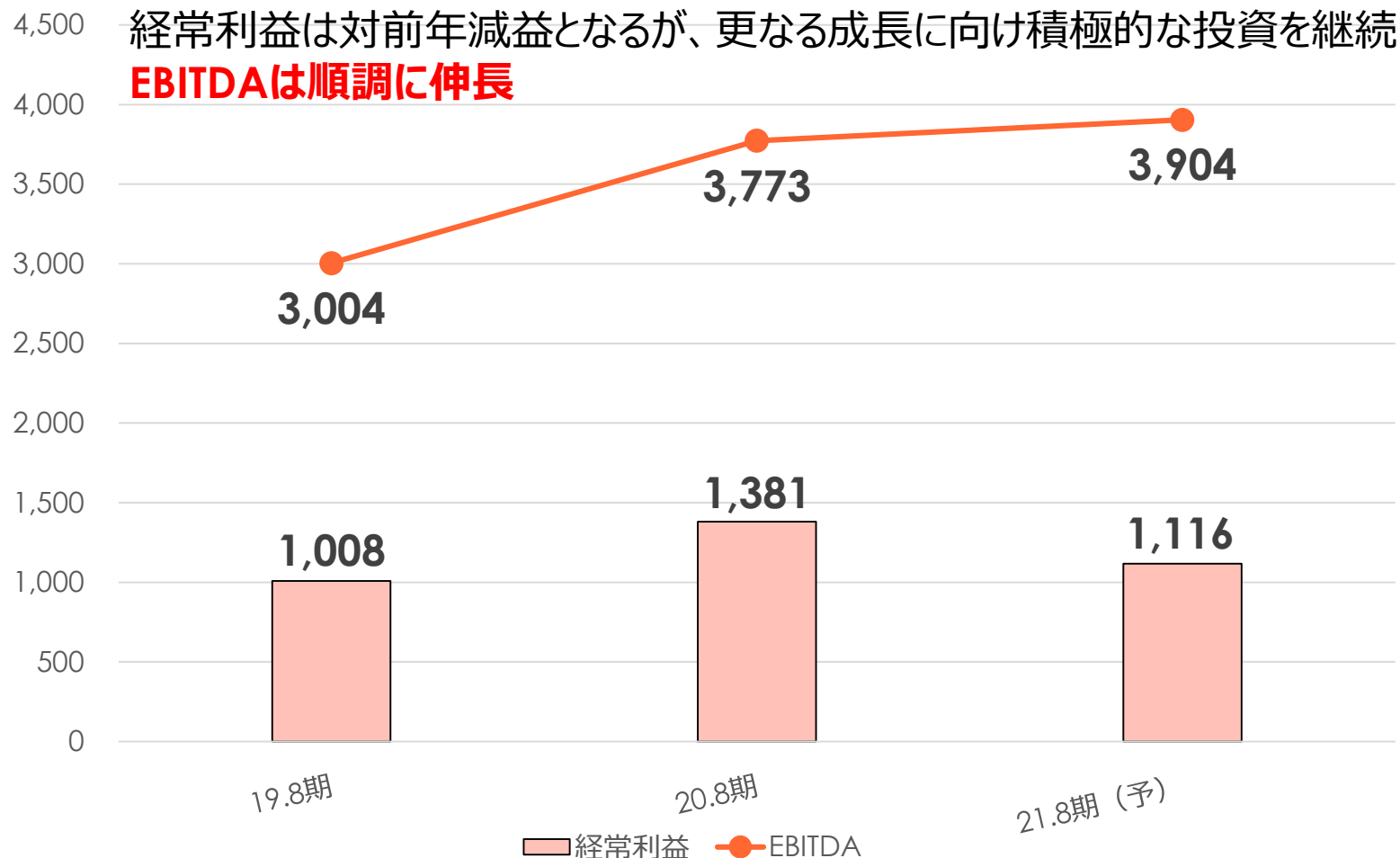
# 通期業績予想売上高詳細

(単位：百万円)

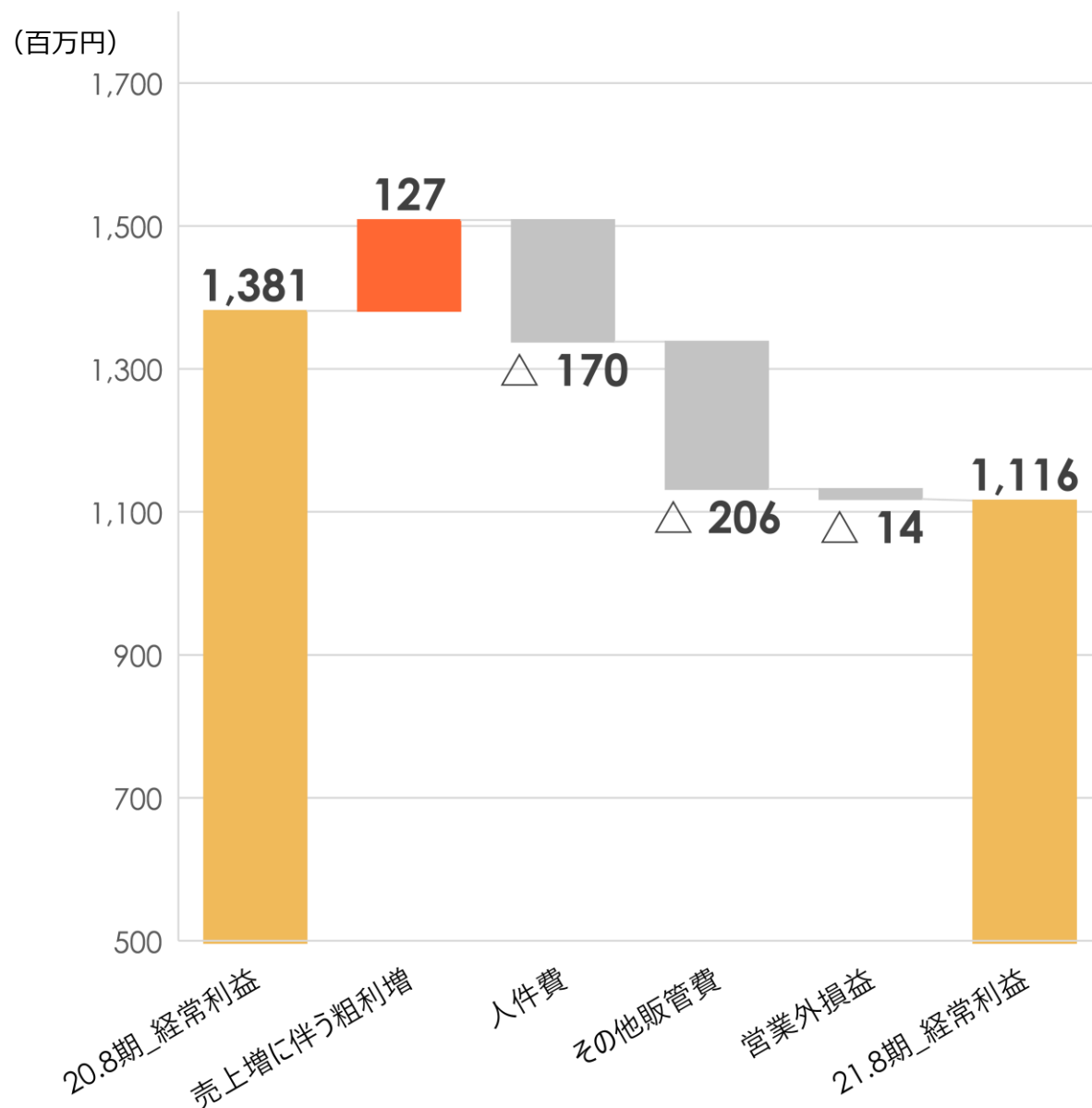
		20.8期	21.8期 業績予想	対前年 増減額	対前年 増減率	コメント
物流事業	レンタル	8,557	<b>9,365</b>	808	9.4%	保管用及び輸送用の需要が順調に拡大
	販売	2,794	<b>2,717</b>	△77	△2.8%	前年並みの売上を維持
	アシストスーツ	150	<b>280</b>	130	86.4%	新商品（Bp+PROⅡ）の導入及び販売チャネルの拡大により前年比大幅増
	物流IoT	342	<b>380</b>	37	10.9%	
	合計	11,845	<b>12,743</b>	898	7.6%	
コネクティッド事業	ICT	349	<b>380</b>	31	8.9%	
	ビークルソリューション	537	<b>434</b>	△103	△19.2%	主要取引先からの受注減が影響
	合計	887	<b>815</b>	△71	△8.1%	
<b>全社合計</b> (うち海外)		<b>12,732</b> (476)	<b>13,559</b> (511)	<b>826</b> (34)	<b>6.5%</b> (7.3%)	



(百万円)



- 日用雑貨業界向け新型パレットを導入し、積極的にパレットを購入。その結果、減価償却費及び保管料が増加。
- 営業活動をコロナ前の水準に戻す前提で経費を予算化。



## ◆ 人件費

人員13名増員予定

## ◆ その他販管費

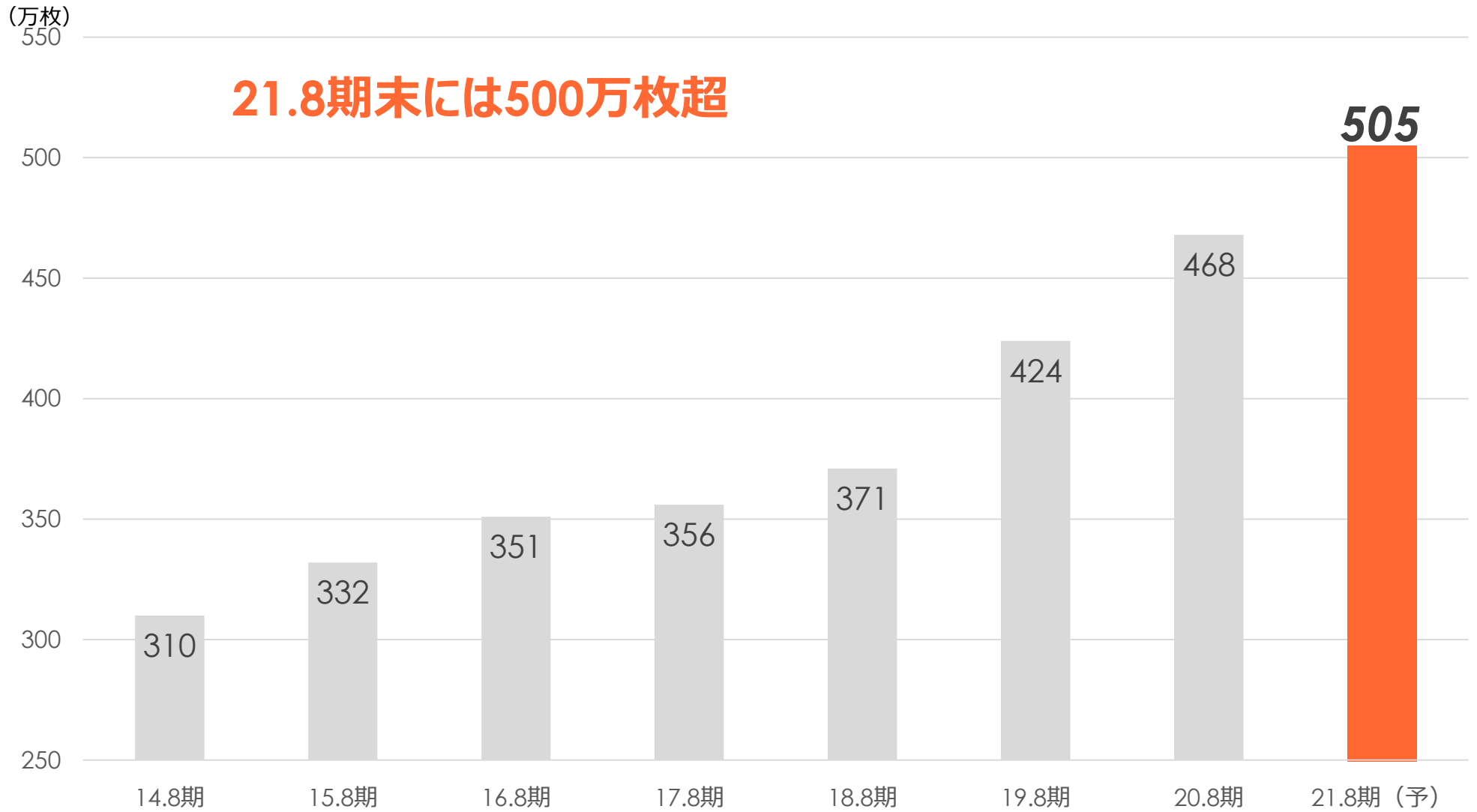
広告宣伝費増：+35百万円  
展示会等への出展を再開

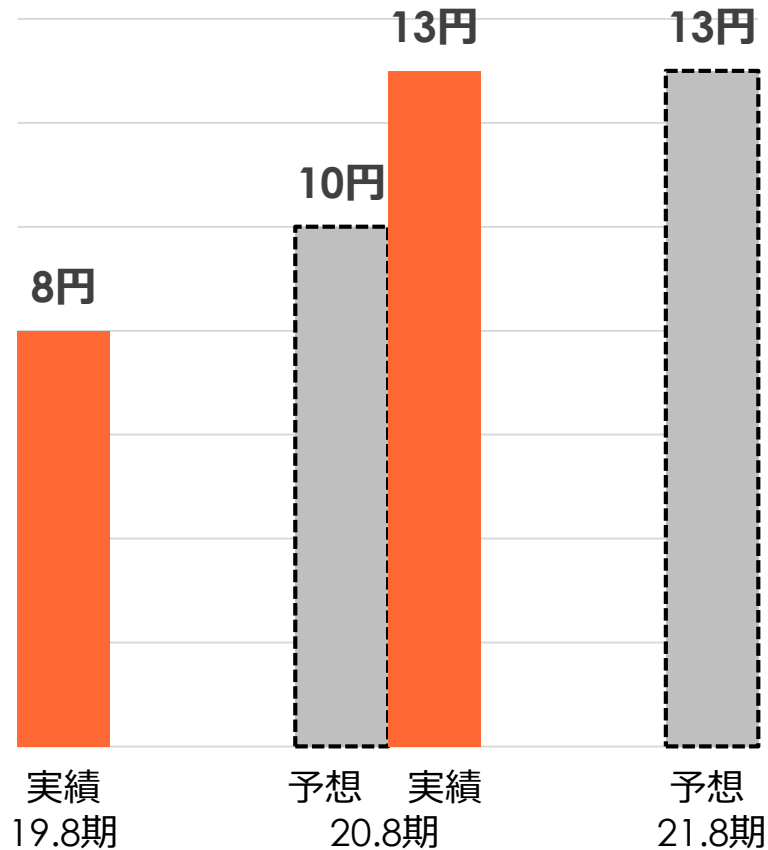
交際費・旅費交通費増：+73百万円  
営業活動をコロナ前の水準に戻す

# 損益計算書 (PL)

(単位：百万円)					
	20.8期	21.8期	対前年 増減額	対前年 増減率	コメント
売上高	12,732	<b>13,559</b>	826	6.5%	
売上原価	8,109	<b>8,809</b>	699	8.6%	
売上総利益	4,622	<b>4,750</b>	127	2.8%	
売上総利益率	36.3%	<b>35.0%</b>	－	△1.3%	減価償却費及び保管料増による
販売費及び一般管理費	3,488	<b>3,865</b>	376	10.8%	
販管費率	27.4%	<b>28.5%</b>	－	1.1%	営業活動をコロナ前の水準に戻す前提で予算化
営業利益	1,134	<b>884</b>	△249	△22.0%	
営業利益率	8.9%	<b>6.5%</b>	－	△2.4%	
経常利益	1,381	<b>1,116</b>	△264	△19.1%	
経常利益率	10.8%	<b>8.2%</b>	－	△2.6%	
当期純利益	984	<b>725</b>	△258	△26.3%	
当期純利益率	7.7%	<b>5.4%</b>	－	△2.3%	
設備投資額	4,680	<b>6,152</b>	1,472	31.5%	20.8期に計画していた自社デポ建設費用が21.8期にずれ込み
減価償却費	2,288	<b>2,751</b>	462	20.2%	レンタルパレットの償却費増
EBITDA(※)	3,773	<b>3,904</b>	130	3.5%	
研究開発費	129	<b>107</b>	△21	△16.6%	

※EBITDA = 税引前当期利益 + 減価償却費 + 支払利息





## 【基本方針】

- 親会社株主に帰属する当期純利益の10%程度を配当総額とする
- 対前期減益となっても減配しないことを原則とする
  1. 2020年8月期の1株当たり配当金は13円
  2. 2021年8月期は減益予想だが、1株当たり配当金は前期と同じ13円とする予定

## 【免責事項】

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や安全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは安全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や他社との競争、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって大きく差異が発生する可能性があります。なお、当社は新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料は、投資勧誘目的で作成されたものではありません。

実際に投資を行う際は、本資料を全面的に依拠した投資判断を下すことはお控えください。

いかなる目的でも、本資料の一部または全部を、無断で転載、二次利用することはご遠慮ください。